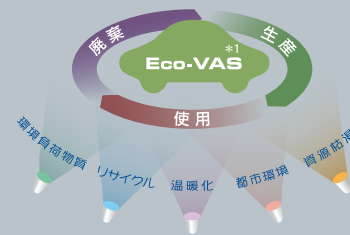


## トヨタは、「トータルクリーン」をめざしています。

「トータルクリーン」を基本理念に、環境に配慮したクルマづくりを進めています。

生産から廃業にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携させ、クリーンなクルマづくりをめざします。さまざまな環境目標を、バランスを取りながら達成し、総合的に環境性能の向上を図ります。



\*1. Eco-VAS [エコバス] : Eco-Vehicle Assessment System. 車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃業にいたるLCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方を踏まえた環境目標を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システムです。

### LCA(ライフサイクルアセスメント)\*2の実施

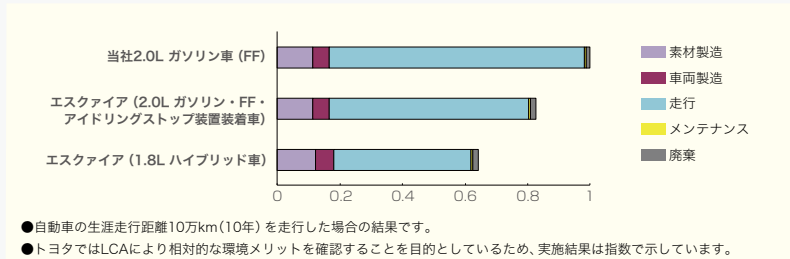
走行段階だけでなく、生産から廃業までのライフサイクルで排出するCO<sub>2</sub>やその他の大気汚染物質の総量を従来に比べて低減しています。

\*2. LCA : Life Cycle Assessment. 資源採取～廃棄・リサイクルまでの各段階で、クルマが環境に与える要因を定量化し、総合評価する手法で、ISO14040シリーズで国際標準化されています。



トヨタが乗用車を対象に実施しているLCAの手法は、ドイツの第三者認証機関テュフ ラインランドによるISO14040/14044規格に基づく審査・認証を受けました。

### ■ LCA実施結果 CO<sub>2</sub> 二酸化炭素 (Carbon Dioxide)



## 1. 地球温暖化対策を実施しています。

■CO<sub>2</sub>排出量の低減をめざした、軽量・高効率なエンジンを搭載。ハイブリッドシステム、バルブマチック、Dual VVT-i\*3、Super CVT-i (自動無段変速機)などの採用により、優れた低燃費を達成しています。

\*3. VVT-i : Variable Valve Timing-intelligent

■エアコンの冷媒充填量を低減。冷媒にオゾン層を破壊しない代替フロンHFC-134aを採用しています。



ハイブリッド車

## 2. 都市環境のクリーン化に配慮しています。

■三元触媒、空燃比補償装置などの採用により、排出ガスのクリーン化を推進。その結果、ハイブリッド車は「平成30年基準排出ガス75%低減レベル」の認定を国土交通省より取得しています。



ハイブリッド車

## 3. 環境負荷物質を削減しています。

■鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを削減し、業界自主目標を達成しています。

## 4. VOC\*4の低減を推進しています。

■内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンなどの揮発性有機化合物(VOC)の発生量を抑制。車室内の臭いや刺激臭を軽減するとともに、厚生労働省が定めている「室内濃度指針値」\*5を下回るレベルとし、業界自主目標を達成しています。車室内空気質の快適性に配慮しました。

\*4.VOC : Volatile Organic Compounds \*5. 厚生労働省が2002年1月に定めた指定物質で自動車に関する物質の指針値

## 5. 環境に配慮した運転を支援します。

■環境に配慮した走りをしているかどうか、メーター内のハイブリッドシステムインジケーターやエコドライブインジケーター\*6で確認できます。



エコドライブインジケーターランプ\*6

\*6. ガソリン車のみ設定。

## 6. リサイクル性の向上を図っています。

■バンパーやインストルメントパネル、グローブボックスなど内外装部品にリサイクル性に優れた樹脂TSOP\*7を使用。また、再生フェルトをフロアカーペットなどに採用しています。

\*7. TSOP : Toyota Super Olefin Polymer

### トヨタ エスクエア 環境仕様

車両仕様	6AA-ZWR80G ◆		3BA-ZRR80G		3BA-ZRR85G	
	総排気量	L	1,797	1,986		
エンジン	2WD(前輪駆動方式)					
駆動装置	4WD(4輪駆動方式)					
駆動方式						
車両重量	kg	1,610~1,640	1,560~1,650	1,660	1,640~1,650	1,660~1,740
燃料消費率	WLTC	燃料消費率※1(国土交通省審査値)	km/L	19.8	13.6	12.6
		CO <sub>2</sub> 排出量	g/km	117	171	184
	JC08	燃料消費率※1(国土交通省審査値)	km/L	22.8	-	
		CO <sub>2</sub> 排出量	g/km	102	-	
主要燃費改善対策	ハイブリッドシステム、可変バルブタイミング、電動パワーステアリング、電気式無段変速機、アイドリングストップ装置					
環境情報	排出ガス	認定レベルまたは適合規制(国土交通省)	平成30年基準排出ガス75%低減レベル※2			平成30年排出ガス規制適合※2
	CO/NMHC/NOx	g/km	1.15/0.025/0.013		1.15/0.10/0.05	
	車外騒音(加速/定常/近接)	dB	74/70/82		74/70/88	
	冷媒の種類(GWP値※3)/使用量	g	HFC-134a(1,430※4)/720			
環境負荷物質削減	鉛/水銀、カドミウム/六価クロム					
車室内VOC	自工会自主目標達成(1996年比1/10以下※5)/自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止※6)					
リサイクル関係	自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)/自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)					
リサイクルし易い材料を使用した部品	TSOP	フロント&リヤバンパー、インストルメントパネル、グローブボックスなど				
樹脂、ゴム部品への材料表示	あり					
リサイクル材の使用	再生フェルト	フロアカーペット、ダッシュサイレンサーなど				

◆印の車両は「2020年度燃費基準\*」をクリアしています。 \*省エネ法に基づき定められている燃費目標基準

※1. 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。

※2. WLTCモード走行

※3. GWP : Global Warming Potential(地球温暖化係数)

※4. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められています。

※5. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。

※6. 交通安全の観点で使用する部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスプレイランプ、室内蛍光灯)を除く。